

「第1期計画」からの課題、「第2期計画に向けたニーズ調査」から見たこと

【主な課題】

課題①：①-1 保育所の待機児童、①-2 施設

課題②：潜在ニーズの把握

課題①-1：保育所の待機児童

- 平成31年度（令和元年度）の4月時点で待機児童が17名。
- 第1期計画においても、計画初年度は3号認定においてニーズ量に対して確保の内容が不足していた。
- 第2期計画（案）の「幼児期の教育・保育～中略～量の見込みと確保の方策の概要」1. 教育・保育[3]3号認定②1～2歳、において確保の内容がニーズ量を満たしていない。
- 第2期計画のためのニーズ調査で、無償化された場合に教育・保育事業の利用状況を変更等するかという問いに対して、「認可保育所（に変更する）」を選んだ人25.8%、「幼稚園（に変更する）」を選んだ人25.0%とほぼ同数だった。同じく、無償化された場合に保護者の就労状況を変更等するかという問いに対しては、「働く」「働く時間を増やす」は合わせても20.3%で、「変更等しない」が63.7%と圧倒的に多かった。
- 第2期計画のためのニーズ調査での回答、定期的に利用したい教育・保育事業は何かという問いに対して、「認可保育所」を選んだ人45.2%、「幼稚園」を選んだ人40.3%いて、「幼稚園の預かり保育」を選んだ人24.1%いたことも合せて考えると、保育所と幼稚園で希望する割合は同程度であるということがわかった。

課題①-2：施設

- 第2期計画のためのニーズ調査での回答、施設を選ぶときに重視したい点は何かという設問で「保育施設の安全性」を選んだ人は10.3%、「保育施設・設備の充実度」を選んだ人は7.8%いて、選択肢が17ある中で7番目と8番目という結果になっている。また、自由意見に「通っている保育園の建物が古く、狭くなっている」という意見などもあり。
- 市内保育所の多くは昭和50年代に建てられたものが多く老朽化が問題になっており、今後の継続した保育の実施のためには園舎の建替え等が必要になってくる。

方策：(1) 保育士
(2) 幼稚園
(3) 施設

課題②：潜在ニーズの把握

- 前回までの子ども・子育て会議にて、ニーズ調査の回答を出していない家庭にこそ支援が必要な家庭があるのではないか、という意見があり、そういった家庭をどうやって把握し支援していくのか。
- 第2期計画のためのニーズ調査では、自由意見欄の回答として「相談したくてもできない」「市から率先して聞いてほしい」といった意見もあった。
- 子育て支援センタースタッフが親子と実際に接する中で、「子どもがそのまま親になっている」「親の子育て力の底上げが必要」といった意見がある。
- 第2期計画のためのニーズ調査では、自由意見欄の回答として「父親学級」「両親学級」「子育て支援講座やセミナー」などを希望している意見もあった。
- 要対協の関りの中で、「要保護家庭で育った子が親になり、負の連鎖が生じている」といった意見がある。
- 昨今、“子どもの貧困”が問題になっている。子どもの貧困には親の貧困もあり、貧困の背景には様々な理由や家庭の事情がある。問題が単純ではなく、一機関での支援では解決に至ることは困難であり、継続した長期的支援も必要である。

方策：家庭支援